

【社会科授業の実践】

(1) 単元名 天下統一と江戸幕府 (1 信長・秀吉・家康と天下統一) (6 学年 7 月)

(2) 本時のねらい

自分と他者の考えを総合して、3人の武将が戦乱の世を統一し、平和な世の中をつくるために果たした役割について、より広い視野から考えをもつことができる。

(3) 活用に視点を当てた「考え、表現させる授業」の改善・充実

① 次のような既習事項の活用の工夫を行ったことは、習ったことを使って根拠を明らかにしながら自分の考えをもつために有効であったか。

・さまざまな資料から情報を収集・選択する技能を活用し、観点に沿って調べたり、複数の意図的な資料から調べたりする活動を行う。

② 次のように考えを広げたり深めたりしたことは、よりよい考えを見だし、自分の考えをもつために有効であったか。

・天下を統一して平和な世の中をつくることに最も貢献したと思う武将を選択した後に、同じ武将を選択した人同士のグループでその根拠とした考えを交流する。
・別の武将を選択した人同士の小グループを意図的に編制して、考えを交流する。
・全体の場でそれぞれの考えを交流する。

(4) 授業の様子

① 既習事項の活用の工夫

この授業で活用できる既習事項

○資料を読み取る力 ○さまざまな資料から必要な情報を収集・選択する力

「つかむ」の場面では、『長篠合戦図屏風』と『江戸図屏風』を提示して城や人々の様子などを比較させた。児童からは「城の大きさが違う。」「江戸の城下町は、いろいろな人がたくさんいる。」「こっちは武器を持って戦っていて、こっちはみんな平和に暮らしている。」などの発言があった。戦乱の世の中から平和な世の中になる間にはどんなことがあったのか、この時代に活躍した織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の肖像画を提示して、学習課題「3人の武将の中で、天下を統一して平和な世の中をつくることに一番貢献した武将は誰だろう。」を設定した(図1)。

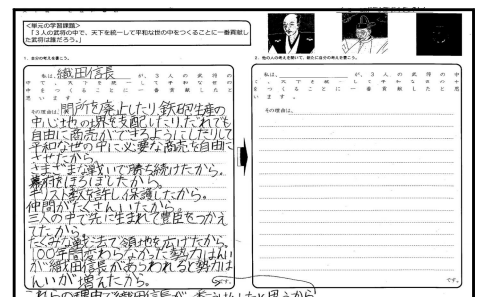
「追究する」の場面では、信長・秀吉・家康の3人の事績について調べ、課題に対する自分の考えをまとめていった。調べる観点を「主な戦い」、「主な政策」、「外国との関わり」として、教科書、資料集、教師が意図的に配布した資料、図書室から持ってきた図書資料、児童が持参した図書資料などを使って調べていった。人物についてさまざまな資料から調べる活動は4月当初から行っているため、児童はすぐに資料を手にとり、ワークシートやノートにまとめていった。第2時から第4時まで1時間につき1人の武将について調べ、毎時間「その武将が天下を統一して平和な世の中をつくることに貢献したと思ったか。」を尋ねていった。そして第5時の前半では、調べたことをもとに学習課題に対する自分の考えをもたせ、その理由をワークシートにまとめさせた(図2)。

② 考えを広げたり深めたりする工夫

第5時の後半では、同じ武将を選択した児童全員で、その人物を選んだ理由を伝え合い、納得のいく理由や自分では見つからなかった根拠などを共有させた。その際、次時では異なる武将を選択した児童同士の小グループで考えを交流するので、他の人たちを説得できるようにたくさんの根拠を手に入れておくよう伝えた。すると児童はさらに積極的に根拠を共有し合ったり、資料を見直してさらなる根拠を探したりして、考えを深めていった(図3)。



【図1 学習課題の設定】



【図2 自分の考え】

第6時は、自分の考えをさらに広げ深めるために、考えの異なる児童と交流をして課題を解決する時間とした。選択した武将が異なる児童同士で教師が意図的に小グループ（4～5人）を編制し、それぞれの考えを交流させた（図4）。このグループ編制に当たっては、児童の人間関係を考慮しつつ、選択した武将が同じであってもその根拠が異なる児童を組み合わせるようにした。交流の際、話す側には「相手を説得できるよう根拠を示しながら」、聞く側には「相手の話を最後まで聞き、『なるほど』と思ったことをメモをして、自分の考えに取り入れる」よう伝えた。また、交流後に選択する武将を変えた児童には、黒板の3人の武将の肖像画の下に貼っておいた名前マグネットを移動させるよう伝え、なぜ考えが変化したのか理由を発表させるようにした（図5）。そして、武将ごとに座席を移動し、全体で意見交流を行った。小グループでは聞くことができなかった考えや、武将を変えた児童の考えを交流させた。その際、「決められない」と答えた児童が2人出てきた。それぞれの武将の事績を挙げて「みんなが偉いことをしたから決められない。」という考えを述べると、それに同調する児童や「信長と秀吉」や「秀吉と家康」などと述べる児童が複数現れた。それぞれの武将のよさを理由に複数の武将を選択することも自分自身の歴史に対する判断であるとして、自分の考えとして認めることとした。全体交流の後、改めてもった考えをワークシートに記述させ、考えが変わった児童には名前マグネットを移動させた。そして、全体の場で数名の児童に発表を行わせた。



【図3 根拠を深める様子】



【図4 小グループでの意見交流】

（5）成果と課題

①既習事項の活用の工夫について

今までの学習の成果を生かして児童はさまざまな資料から3人の武将について調べ、児童全員が調べたことをもとに自分の考えをもつことができた。しかし、調べる時間が十分に確保できなかったため、内容の定着が不十分な児童も見られた。

②考えを広げたり深めたりする工夫について

【同じ考えの児童同士での意見交流の場面】

「自分が選択した武将が一番だ、と相手を説得したい。」という目的意識があったので、他の児童の考えをよく聞いて進んで自分の考えに取り入れようとした児童が多かった。また、友達と一緒に資料を見直して根拠に取り入れていた。

【小グループでの意見交流の場面】

一人一人が自分の考えを責任をもって主張し、自分とは異なる考えをしっかりと聞いて、再構成することができた。しかし、1・2組とも選択する武将の人数が均等に分かれなかったため、一つのグループに4～5人での交流となってしまった。そのため、信長を主張する児童が劣勢になるグループも見られた。また、班によっては質問や反論などがあまり出ずに活発な意見交流ができなかった班もあった。

【全体の場での交流の場面】

名前マグネットを用いて児童が選択した武将を視覚的に分かりやすくした。それぞれの交流後に考えが変わった児童にマグネットを移動させてその理由を発表させたことで、自分の考えを再構成したり広げ深めたりすることができた。しかし、相手の武将のマイナス面を主張する意見が多く出てしまったので、自分が選択した武将の事績についてもっと意見を出させた方が、3人の武将それぞれが天下統一・平和な世の中づくりに貢献したことが理解できたと考える。



【図5 板書の様子】